

Atlas
Technologies

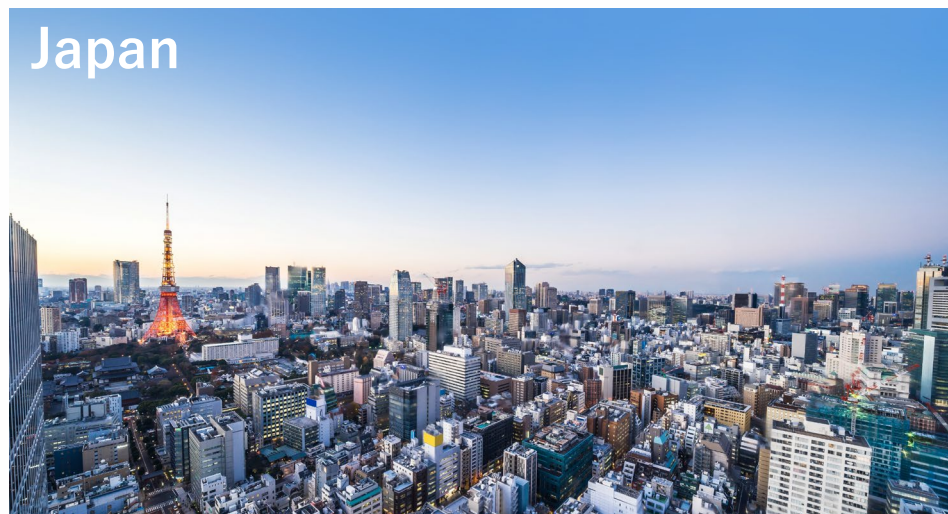
2023年12月期 第2四半期決算説明資料

Atlas Technologies株式会社（証券コード：9563）

2023年8月14日

1. 会社概要
2. 2023年12月期 第2四半期決算ハイライト
3. 成長の方向性
4. 参考資料

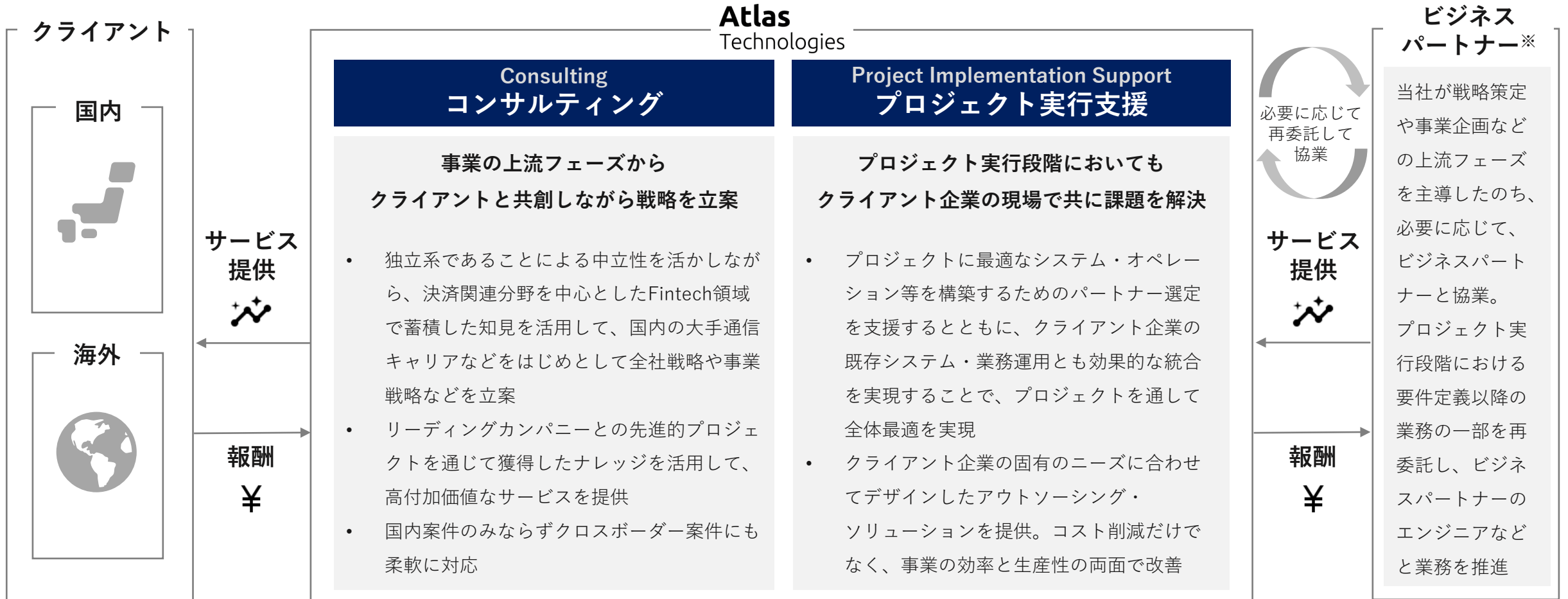
会社概要



会社名	Atlas Technologies株式会社（アトラス テクノロジーズ）
事業内容	Fintech領域のコンサルティングおよびプロジェクト実行支援
設立	2018年1月（決算期：12月）
本社所在地	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
拠点	日本（東京）・シンガポール
代表者	山本 浩司

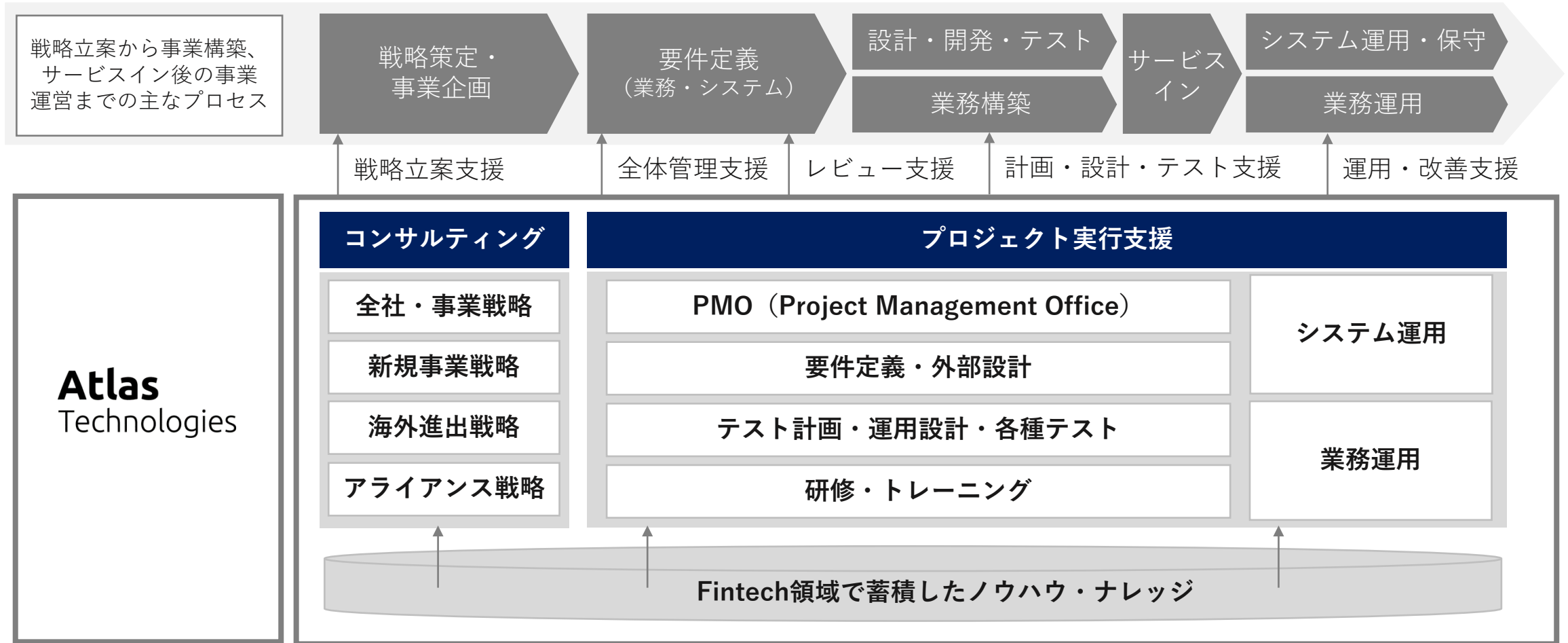
独立系Fintechコンサルティング会社として、戦略立案から実行までを支援

当社は、決済（ペイメント）関連分野を中心としたFintech領域のコンサルティングやプロジェクト実行支援サービスを提供しています。事業の上流フェーズからクライアントと共創しながら戦略を立案し、その後のプロジェクト実行段階においても共に課題解決を推進します。



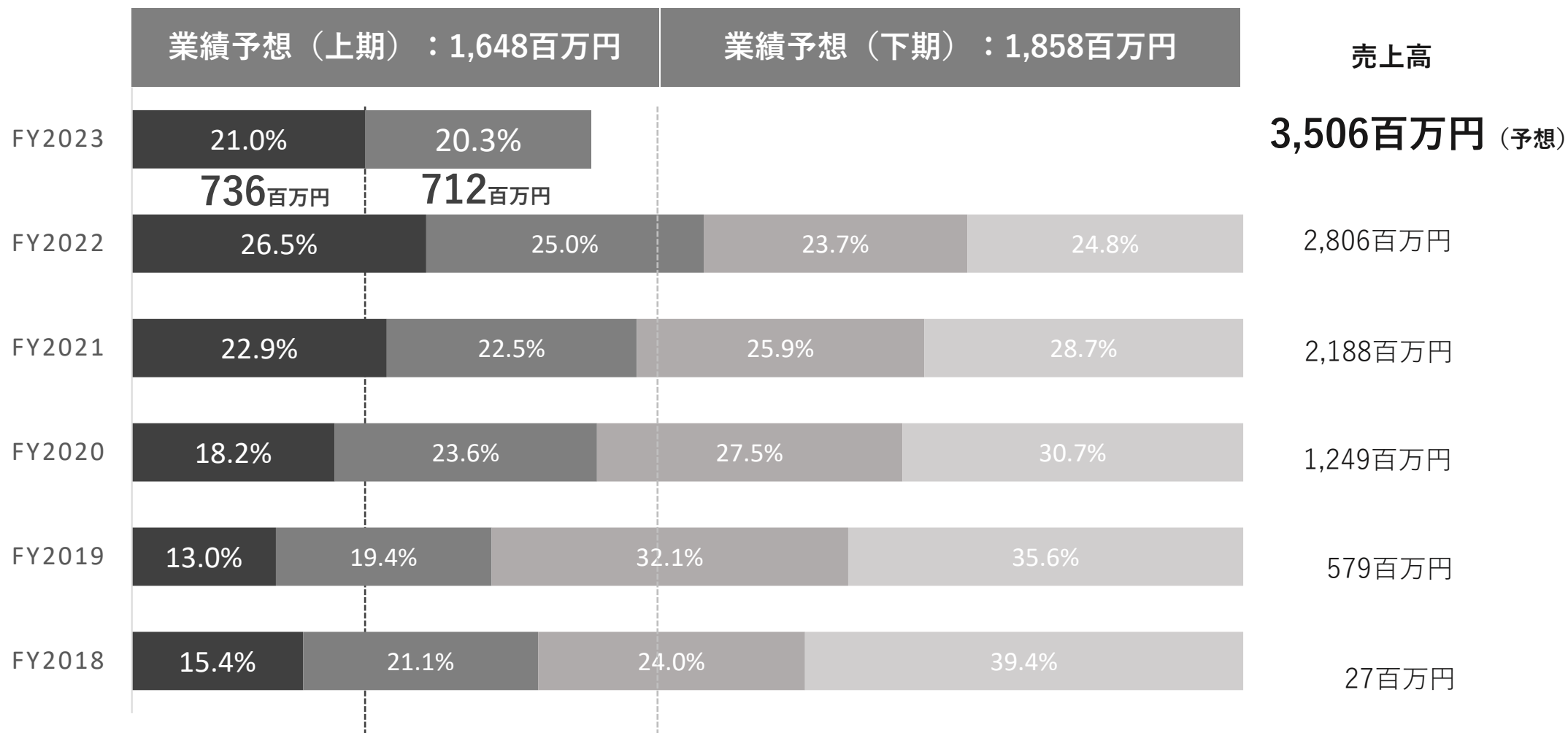
Fintech領域の課題に一気に通貫で並走するデジタルソリューション・パートナー

当社は、プロジェクトマネジメントに特化して、戦略立案から事業構築、サービスイン後の事業運営までを一気通貫でご支援することによって、クライアントのFintech事業における課題解決を行います。

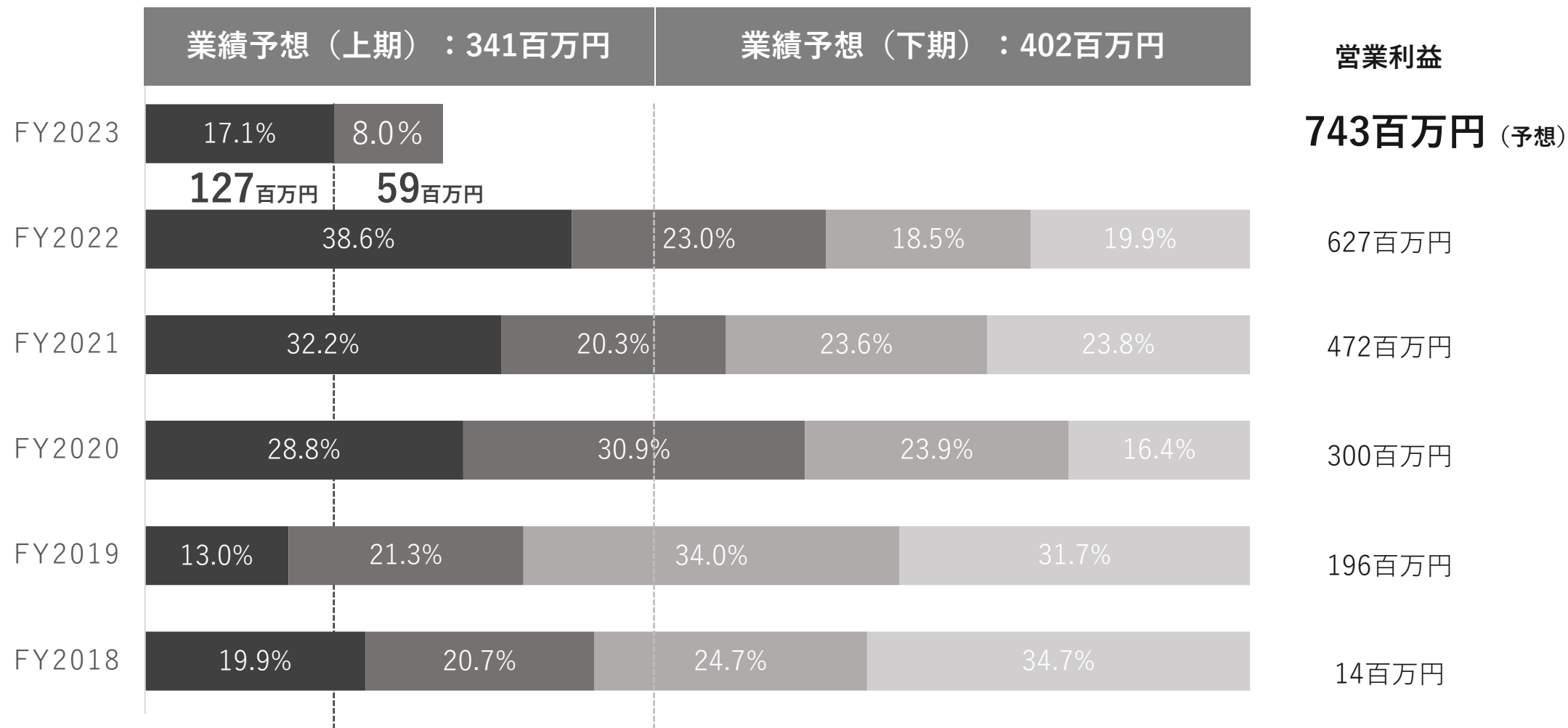


2023年12月期 第2四半期決算ハイライト

FY2023/Q2の売上高は、通期予想の20.3%にあたる712百万円



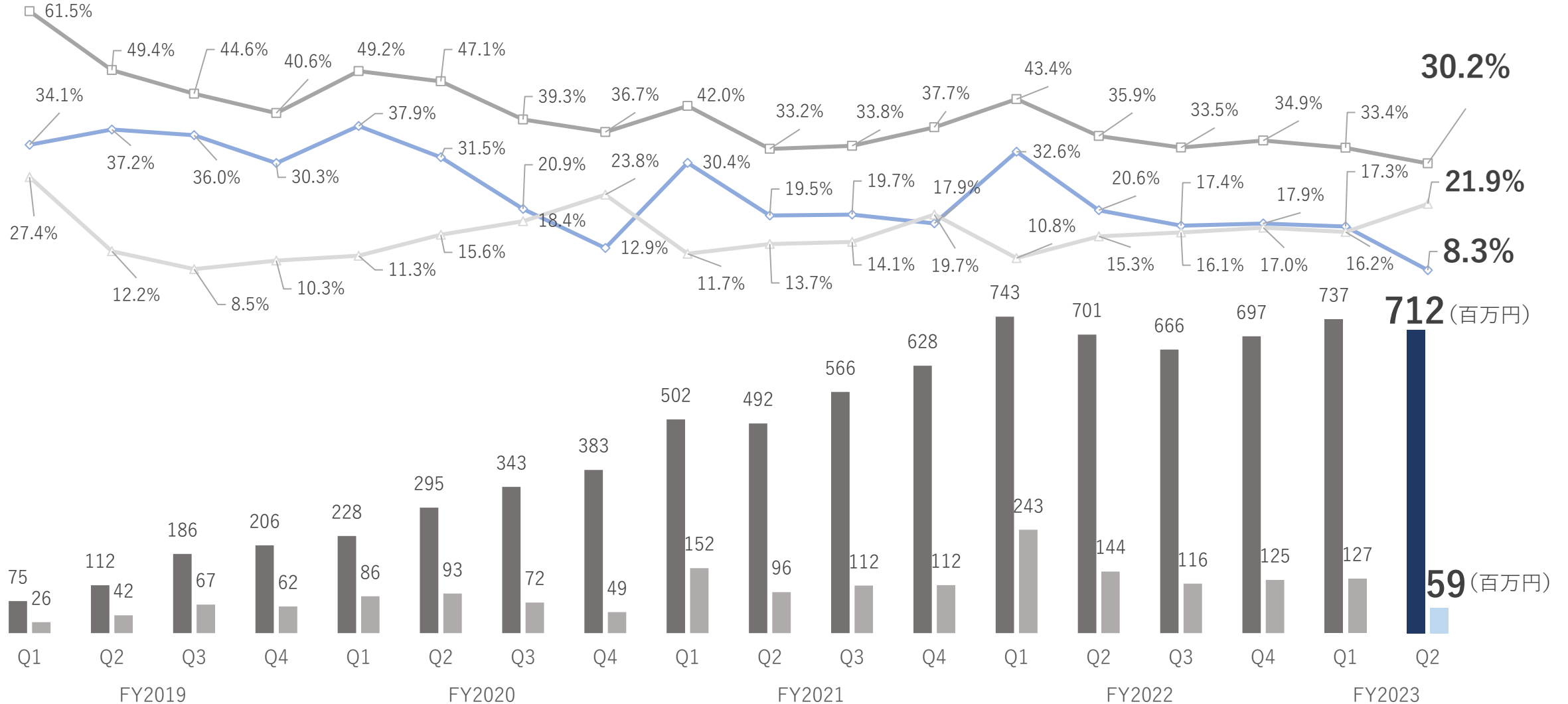
FY2023/Q2の営業利益については、Q2の採用費及び退去済みオフィスに係る減価償却費の影響により、8.0%の59百万円



- 売上高は【712百万円】。前年同期比では【1.7%増収】となる一方、新規プロジェクト開始・獲得遅延等により直前四半期比では【3.3%減収】
- 売上総利益は【215百万円】。コンサルタント人件費増により、前年同期比【14.3%減益】、直前四半期比【12.6%減益】
- 営業利益は【59百万円】。Q2における採用費及び退去済みオフィスに係る固定資産の減価償却費の影響により、前年同期比【59.0%減益】、直前四半期比【53.5%減益】
- 四半期純利益は【40百万円】。前年同期比では【58.9%減益】、直前四半期比では【49.4%減益】

(単位：百万円)	FY2023/Q2	前年同期 (FY2022/Q2)			直前四半期 (FY2023/Q1)			上期累計 (FY2023/上期)	達成率 (対前回業績予想)
		実績	増減額	増減率	実績	増減額	増減率		
売上高	712	701	12	1.7%	737	△24	△3.3%	1,449	41.3%
売上原価	497	449	48	10.6%	490	7	1.4%	987	—
売上総利益	215	251	△36	△14.3%	246	△31	△12.6%	462	—
(売上総利益率)	30.2%	35.9%	—	△5.6pt	33.4%	—	△3.2pt	31.9%	—
販売費及び一般管理費	156	107	49	46.2%	119	37	31.2%	275	—
営業利益	59	144	△85	△59.0%	127	△68	△53.5%	187	25.1%
(営業利益率)	8.3%	20.6%	—	△12.3pt	17.3%	—	△9.0pt	12.9%	—
経常利益	65	150	△85	△56.8%	125	△60	△48.2%	190	25.6%
(経常利益率)	9.1%	21.4%	—	△12.3pt	17.0%	—	△7.9pt	13.1%	—
当期純利益	40	98	△58	△58.9%	80	△39	△49.4%	120	26.9%
(当期純利益率)	5.7%	14.0%	—	△8.4pt	10.8%	—	△5.2pt	8.3%	—

売上総利益率は30%台を維持、Q2における販管費の影響により営業利益率は8.3%

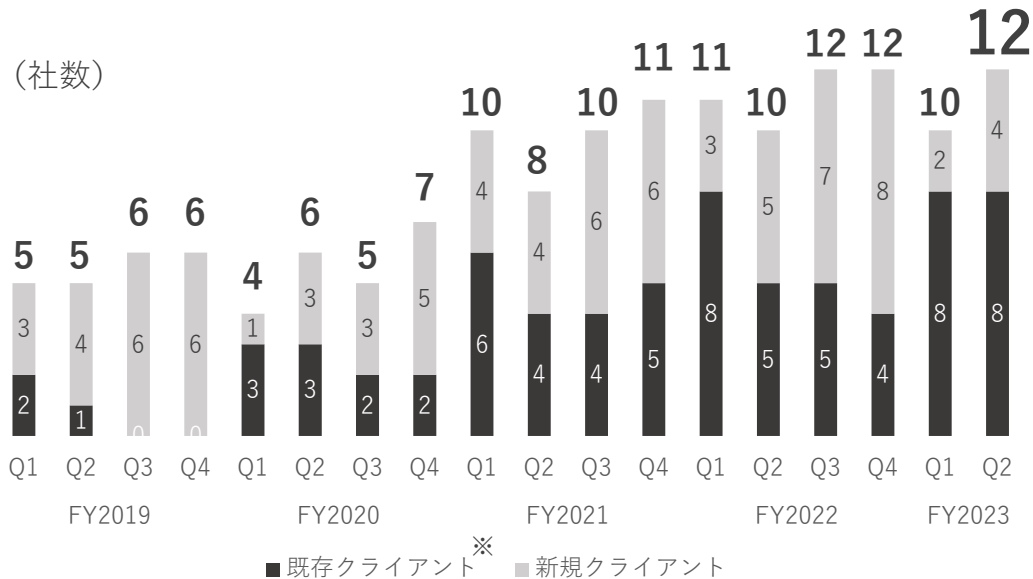


Fintech領域に特化した高付加価値サービスの提供により、新規クライアントの獲得を推進

Fintech領域で蓄積したナレッジ・ノウハウや、各業界のリーディングカンパニーとの先進的なプロジェクト経験によって得られた知見などを活用し、再現性を持って事業を展開することで新たなクライアントを獲得しています。

クライアント数の推移

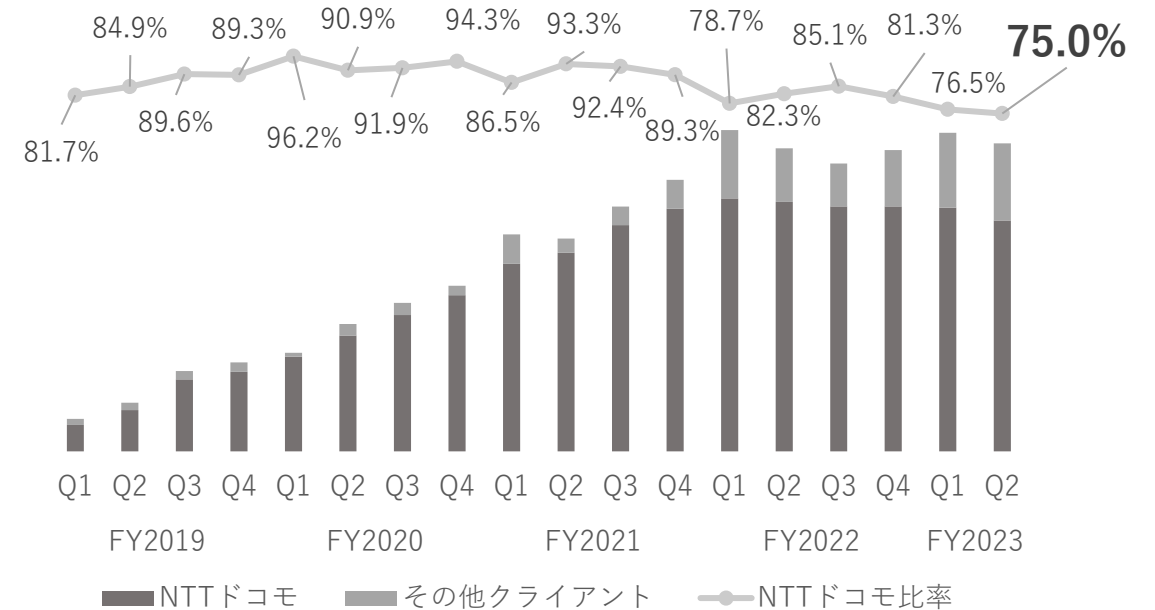
- FY23/Q2のクライアント数は合計12社
- Q1に続き、新規クライアントを2社獲得



※ 前年度に売上を計上しており、かつ、当年度も売上を計上したクライアント

クライアント別売上高比率の推移

- 新規・継続クライアントからの受注を積み増すことで売上高成長を伴いながら、クライアント別売上高比率の適正化を推進（FY23/Q2のNTTドコモ売上比率は前年同期比・直前四半期比ともに低下）

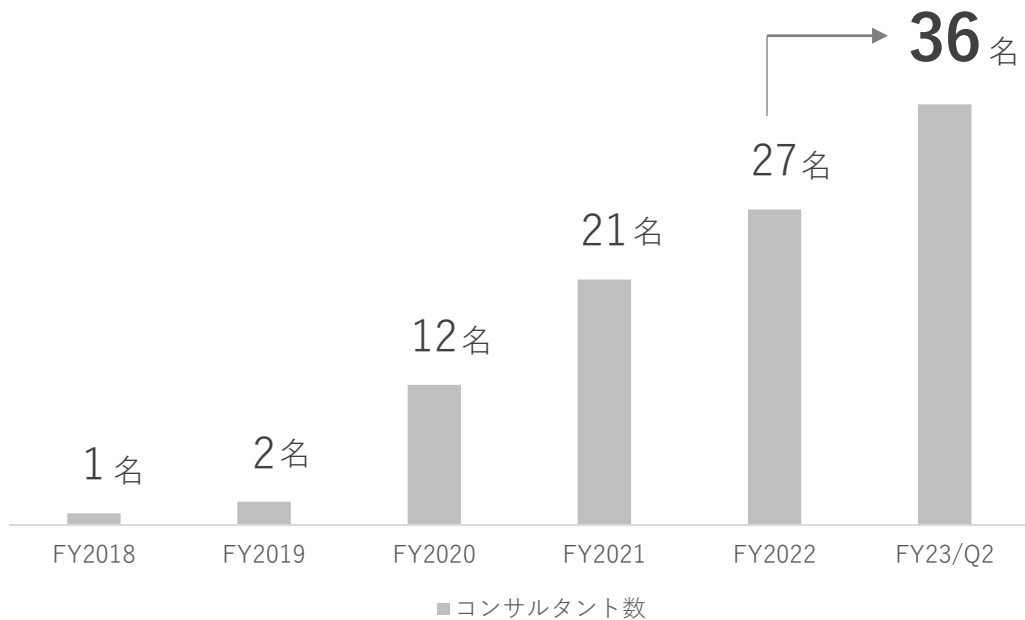


Fintech領域のバックグラウンドや専門性を有するコンサルタントの採用

クレジットカードの国際ブランド企業において副社長やプロダクト責任者などの要職を歴任したコンサルタントをはじめ、国内大手のカード会社、銀行、SIer企業、コンサルティング会社などから多様なバックグラウンドを有するコンサルタントが当社に参画しています。

コンサルタント数※の推移

- リファーラル採用・ダイレクトリクルーティング・エージェント採用の取り組みをさらに推進。各種研修や人事制度評価によって、育成・評価・フィードバックもさらに強化



コンサルタントのバックグラウンド・専門性

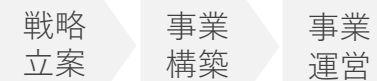
- コンサルタントの主な出身企業は、主にFintech関連事業会社やコンサルティング会社等。豊富なプロジェクト経験や各領域における専門性を有する優秀な人材が参画

バックグラウンド

- 国際ブランド企業
- カード会社・金融機関
- 通信キャリア
- ITサービス企業
- SIer企業
- コンサルティング会社
- その他Fintech事業会社

知見・専門性

豊富なプロジェクト経験



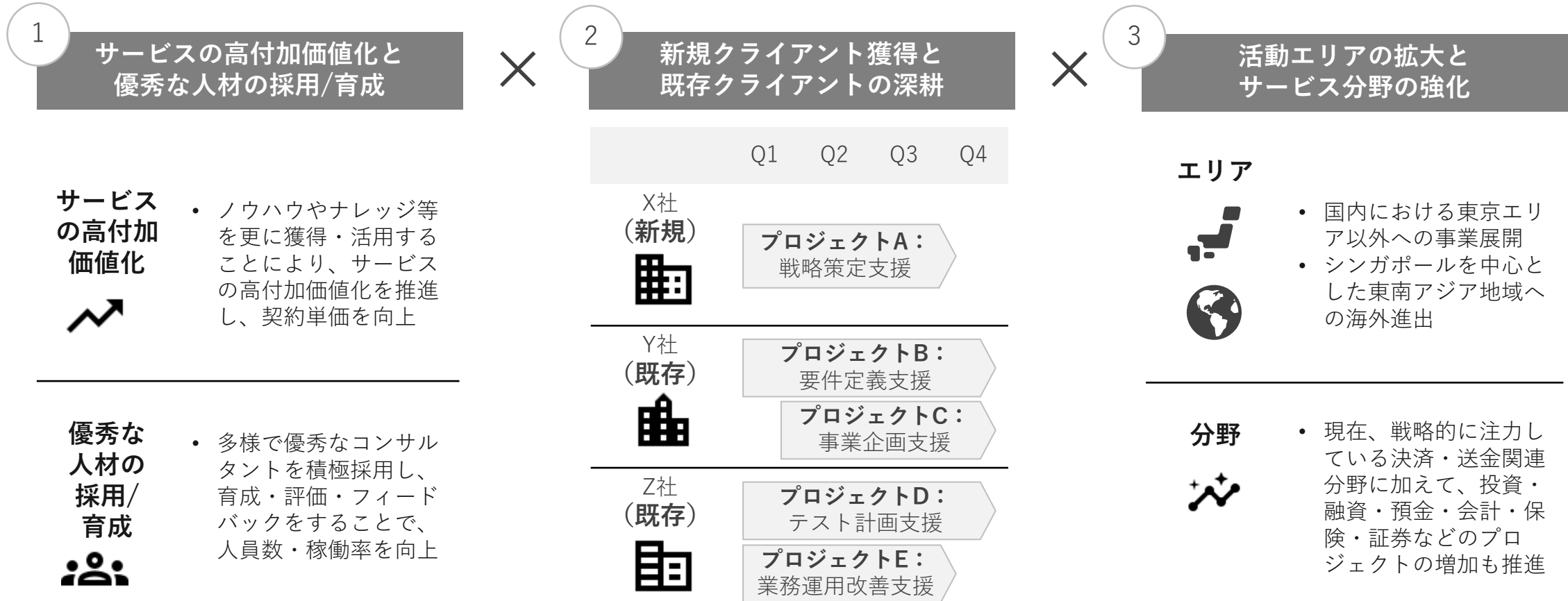
各領域における専門性

Regulatory 法令・規制	Payments 決済
License ライセンス	Data データ
Core Systems システム・業務	Fraud 不正
UI/UX 顧客体験	

成長の方向性

サービスの高付加価値化などを推進することで、Fintech領域における実績をさらに創出

コンサルティングサービスの高付加価値化と優秀な人材の採用を行い、国内外において多様で先進的なプロジェクト経験をさらに積み上げることで持続的な事業成長を推進します。



サービスの高付加価値化と、優秀な人材の採用/育成

コンサルティングサービスの高付加価値化により契約単価を向上させるとともに、優秀な人材の採用・育成などによりコンサルタント数の増加および稼働率の向上を図ります。

1

サービスの高付加価値化と 優秀な人材の採用/育成

サービスの 高付加 価値化



- ノウハウやナレッジ等を更に獲得・活用することにより、サービスの高付加価値化を推進し、契約単価を向上

優秀な 人材の 採用/ 育成



- 多様で優秀なコンサルタントを積極採用し、育成・評価・フィードバックをすることで、人員数・稼働率を向上

サービスの高付加価値化 [契約単価の向上]

On the Job Trainingの強化

- 多様なプロジェクトを通じて、Fintech領域の専門的なスキル・知見を更に強化
- クライアント企業の経営の意思決定の場に可能な限り同行させることで、事業に必要なマインドセットなどを高める機会を提供

Off the Job Trainingの強化

- 個別プロジェクトから得られた知見や、国内・グローバルにおける最先端動向の研究などを通じて得られた知見をナレッジ化・アセット化することを更に推進

優秀な人材の採用/育成

[コンサルタント数の増加・稼働率の向上]

採用の強化

- 従来から取り組んでいる、リファーマル採用・ダイレクトリクルーティング・エージェント採用をさらに強化
- 当社の人事採用担当リソースを補強することで、新たに採用広報活動などを推進

育成・評価・フィードバックの強化

- 現状実施しているオンライン研修や外部セミナー・研修の受講、有識者を招聘しての社内勉強会等のさらなる推進
- 当社の人事制度に基づき、明確かつ透明性の高い評価やフィードバックをさらに推進

新たな企業への横展開と、クライアント内における継続・追加受注の拡大

各業界のリーディングカンパニーとの先進的なプロジェクト経験によって得られた知見を活用し、新たな企業へも再現性を持って事業を展開します。また、既存クライアントからの高い信頼に基づき、1社あたり複数のプロジェクトを継続的にご支援することで、プロジェクトの層をさらに積み上げます。

2

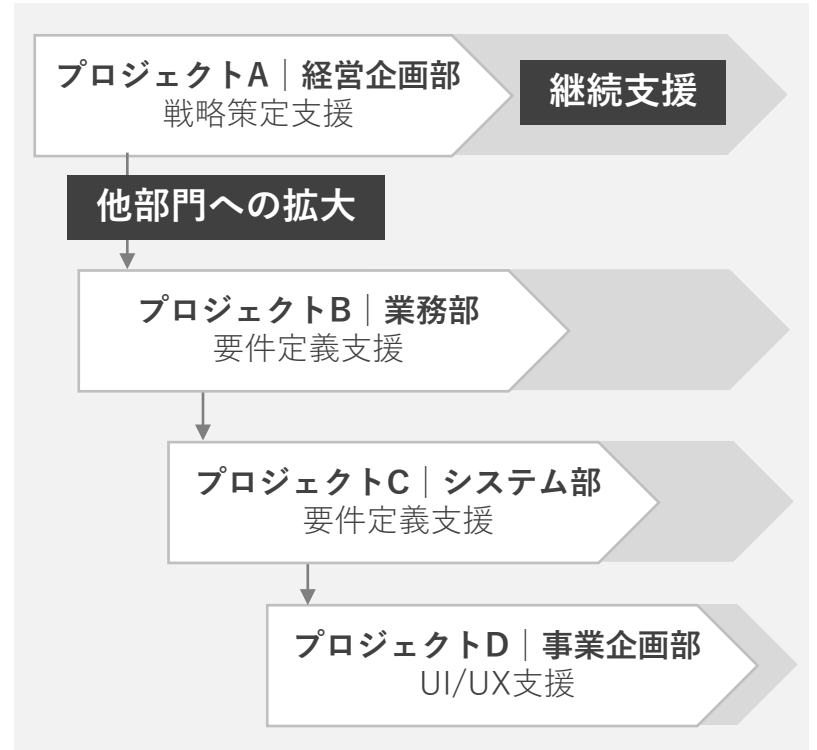
新規クライアント獲得と 既存クライアントの深耕



新たな企業への横展開 [新規クライアント獲得]



クライアント内の継続支援・他部門への拡大 [既存クライアントの深耕]



国内外における事業エリアの拡大と、Fintech領域の全分野のさらなる強化

国内の主要エリアへの拡大に加えて、世界中のFintech領域の企業や組織が集積するシンガポールを拠点とした東南アジアへの事業展開を推進します。また、Fintech領域の決済・送金・融資といった現状注力する戦略分野に加えて、投資・預金・保険・証券分野なども強化します。

3

活動エリアの拡大と サービス分野の強化

エリア



- 国内における東京エリア以外への事業展開
- シンガポールを中心とした東南アジア地域への海外進出

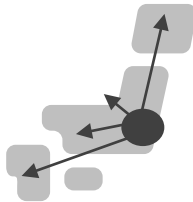
分野



- 現在、戦略的に注力している決済・送金関連分野に加えて、投資・融資・預金・会計・保険・証券などのプロジェクトの増加も推進

国内主要エリアや東南アジアへの展開 [活動エリアの拡大]

国内主要エリアへの拡大



北海道・東北・中部・近畿・中国・四国・九州エリアにおいて事業やプロジェクトを展開する金融機関や企業も支援

シンガポールを拠点に東南アジアへ展開



東南アジア域内のFintech企業の約40%が拠点を構えるシンガポールを中心に海外事業を展開※

Fintech領域の全ての分野のさらなる強化 [サービス分野の強化]

Fintech領域の各分野

■ 現状注力する戦略分野 □ 今後の強化分野

決済・送金	個人向け融資
個人向け資産管理	法人向け融資
保険	資本調達
経理支援	トレーディング

Kapronasia Singapore Pte. Ltd.の完全子会社化 (2023年9月1日予定)

シンガポールの独立系FintechコンサルティングファームであるKapronasia社の完全子会社化を行う予定

グローバル企業、金融機関、国際機関等に対するアジア全域でのプロジェクト実績を有する同社の広範なクライアント基盤と専門知識を獲得

Kapronasia

設立	2016年6月6日
拠点	シンガポール・香港
事業概要	Fintech領域の戦略・ リサーチアドバイザー
代表者	Zennon Kapron
売上高 (23/3期)	155百万円
従業員数	9人

業務	
リサーチ	コンサルティング
コンテンツ・ベース ド・マーケティング	マーケット・レディネ ス・アシスタンス
Defiコンサルティング	インダストリー・ アップデート

領域	
決済	バンキング・ デジタルバンキング・ P2Pレンディング
キャピタル・ マーケット	ブロックチェーン・ DeFi・ 中央銀行デジタル通貨
保険	資産管理

顧客	
Mastercard	Deutsche Bank
Grab	EQUINIX
United Nations	Facebook 他多数

メディアカバレッジ	
CNBC	The New York Times
Reuters	The Wall Street Journal
Forbes	Financial Times 他多数

事業成長に向けた戦略の進捗

日本およびアジア太平洋地域における両社のサービス強化や両社共同での価値提案の強化を図るとともに、2030年までにアジアNo.1のFintechコンサルティングファームとなること、グローバルな事業拡大を推進することを目指します

Atlas Technologies × Kapronasia

Fintechのグローバル知見・経験の拡大



両社の有するグローバルなFintech領域の知見・経験をもとにコンサルティング分野を更に強化することで、両社のクライアントへの提供サービスを拡大

アジアにおける事業展開の加速



東南アジア域内のFintech企業の約40%が拠点を構えるシンガポールを中心としたAtlas事業を加速するとともに、両社のクライアントの深耕の推進

知見を有すコンサル人材の確保



Kapron Zennon氏をはじめ専門的な知見を有し、グローバル企業へのFintechコンサルティングに精通した優秀な人材を確保

參考資料

人と産業の可能性を、解き放つ

Unleash the potential of every person and industry on the planet

『新たな地図を描くように、価値を生み出す「機会」や「場」を世界中に創り出したい』

創業者が世界の多くの国や都市を旅し、ビジネスを通じて抱いた想いによって、「Atlas（地図）」という名を冠した

「Atlas Technologies」は創業されました。そんな私たちのビジョンは「人と産業の可能性を解き放つ」ことです。

テクノロジーの力によって、世界中の人・組織・産業が本来持っている力を最大限に発揮できる豊かな社会を実現したいと考えています。

あらゆる産業とFintechの融合

To offer seamless solutions for embedding Fintech across all industries

インターネットによって、人類は地球規模で情報を低コストに伝達できるようになりました。

その一方、日々生み出される経済的・社会的価値が世界中で途切れることなく移動し、交換されるためには、いまなお多くの課題があります。私たちは、従来の金融機関のみならず、あらゆる産業がFintechと融合することで、決済・送金・投資・融資・預金・会計・保険・証券など従来の金融のあらゆる領域がテクノロジーによって再定義され、その結果創造された価値が世界中をなめらかに移動し、人と産業の可能性が解き放たれる社会を実現したいと考えています。

1. Challenge the Possibilities（可能性に挑戦しよう）

- 自分たち自身が奮い立つような高い目標を成し遂げよう。解は必ずあると信じて行動する。

2. Build Leadership（全員がリーダーであろう）

- ゴールを掲げ、自らがチームの先頭を走ろう。勇気をもって決め、相手が行動を起こせるように伝える。

3. Act As One（一丸となってコトを成そう）

- 個人では成し遂げられないような驚くべきことをチームで実現しよう。

4. Have Integrity（常に誠実さを持つよう）

- クライアント・パートナー・同僚、そして自分自身に対して誠実で謙虚であろう。

5. Keep It Fun（日常に遊び心を）

- 自らがその日常を楽しみと思えるような機会や場を創り出そう。余裕やユーモアをもって行動する。

Fintech領域のバックグラウンドと専門性を有する経営陣

代表取締役社長

山本 浩司

Koji Yamamoto

- 2018年にAtlas Technologiesを創業
- ソフトバンクグループのFintech事業を担うSBペイメントサービスにて、カード事業・加盟店事業・決済代行業業・送金事業の企画業務を担当。Visa・Mastercard・銀聯といった国際ブランド企業やApple・Google・PayPal・Amazonなどのグローバル企業とのプロジェクトを推進
- 民間宇宙企業および宇宙航空研究開発機構（JAXA）において、宇宙飛行士候補者選抜の設計・運営支援や、スペースシャトル・国際宇宙ステーションの管制官、産学連携施策等に従事
- 慶應義塾大学経済学部卒業

社外取締役

外山 正志

Masashi Toyama

- 国際ブランドのVisa Worldwide Japanにおいてプロダクト統括部長、取締役営業本部長を歴任
- PwC、IBMビジネスコンサルティングにおいて金融機関向けの戦略プロジェクトを統括
- 大手信託銀行において資金証券運用、ディーリング業務に従事
- 金融、決済エリアのスペシャリストとして、日本、香港、ロンドン、NYでの勤務経験
- 2021年より株式会社verita 代表取締役 webメディア事業、独自のコミュニケーションスキルを生かした経営者向けアドバイザー事業に従事
- 学習院大学法学部法学科卒業

社外取締役

須賀 亜衣子

Aiko Suga

- 医療系ポータルを運営するエムスリーの執行役員・人事責任者として成長企業の人事エリア全般の課題に従事、統括
- 国際ブランドのMastercardの副社長として新規プロダクト・サービス営業、国内外事業会社への提携カード営業、アクセプタンス拡大、プロセッシング導入、プライシング、インターチェンジ等、キャッシュレス拡大と付加価値提供に従事、統括
- 新生銀行のノンバンク戦略統括部門やIT部門での企画に従事。貸金業法改正後、グループ会社アプラスに出向、経営執行チームの一員・常務執行役員兼CMOとして企業ターンアラウンドに従事、推進
- マッキンゼーにて金融・ハイテク等多様な業界クライアントの戦略立案から実行支援まで様々なプロジェクトに従事
- カリフォルニア大学バークレー校(政治科学・経済学)卒業後、サンフランシスコベイエリアにてNPO・邦銀支店勤務を経て東京大学法学部学士編入・卒業

Fintech・金融領域における豊富な知識・経験に基づき、事業成長をリードする執行役員

執行役員

デジタルソリューション事業 担当

前田 裕弘

Yasuhiro Maeda

- 国際ブランドのMastercardにて、同社商品統括副社長及び営業統括副社長を歴任。顧客との関係強化並びに業績拡大に貢献し、同社における日本市場初となるデビットカード商品立ち上げも成功
- 国際ブランドのVisa Worldwide Japanにおいてデビットカード商品ヘッドとして、同商品の日本市場での新規プログラム立ち上げおよび拡販に従事。また、同カード商品に関わる国内インフラ、マーケティング、市場調査、プロセッシング分野にも関与し、戦略策定および実行を先導

執行役員

デジタルソリューション事業 担当

小椋 祐治

Yuji Ogura

- SBペイメントサービスにて、加盟店事業・カード事業の新規構築やシステム部門の統括業務に従事
25年にわたり、カード事業、Visa・Mastercard・銀聯などの国際ブランド対応および各種開発案件のプロジェクトマネジメントを推進
- アコムおよび日立システムズにおいて、カード事業の構築や与信ビジネスの事業企画、金融関連法規への対応をはじめとする基幹／周辺システムの企画・開発・運用等に従事

執行役員

人事、法務・総務 担当

高橋 みのり

Minori Takahashi

- 後払い決済サービスを展開するPaidy、SBペイメントサービスにおいて、15年にわたりFintech領域の法務実務およびコンプライアンス推進を統括。ビジネスおよびコーポレートの法務、渉外、企業組織再編などを幅広く推進
- SBペイメントサービスではチーフ・コンプライアンス・オフィサーを担当
- TISでは経営企画部門において、M&A業務等に従事

執行役員

経営企画、財務経理 担当

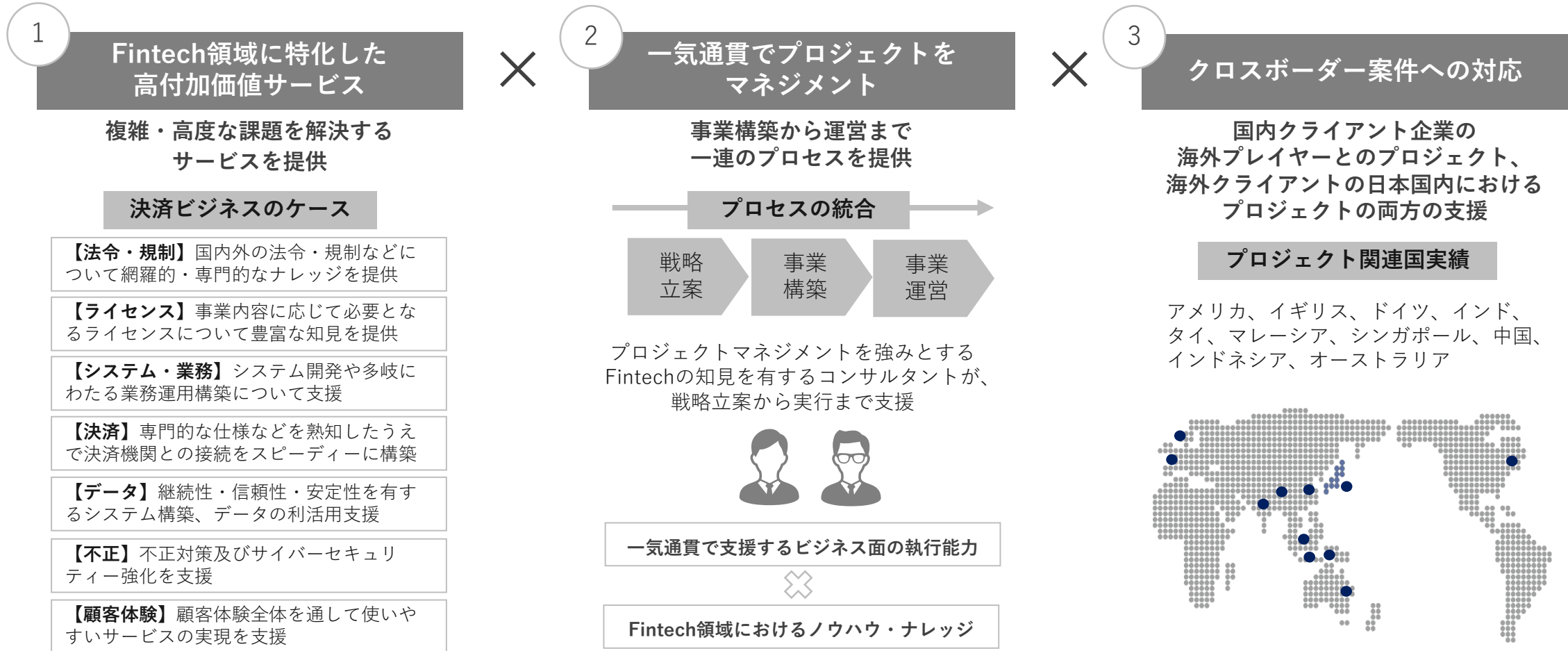
今久保 洋

Hiroshi Imakubo

- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の投資銀行本部において国内外のM&Aアドバイザー業務に約8年半従事。
それ以前はバークレイズ証券株式会社の投資銀行本部にて主にカバレッジ業務に従事
- ゴールドマン・サックス証券株式会社にて主にプリンシパル・インベストメント事業に関わる財務会計業務に従事
- 京都大学大学院工学研究科電気工学修了、京都大学工学部電気電子工学科卒業
- CFA協会認定証券アナリスト（CFA）

国内外のクライアントに対して、Fintech領域に特化した高付加価値サービスを一気通貫で提供

Fintech領域で蓄積したノウハウ・ナレッジの活用により国内外のプロジェクトに対応し、事業構築から運営まで一連のプロセスにおいて高付加価値なサービスを提供します。



Fintech領域に特化した高付加価値サービス

当社は独立系のコンサルティング会社として、決済関連分野を中心にFintech領域において蓄積したノウハウ・ナレッジの活用により、高付加価値なサービスを提供します。

- 1 Regulatory
法令・規制
- 2 License
ライセンス
- 3 Core Systems
システム・業務
- 4 Payments
決済
- 5 Data
データ
- 6 Fraud
不正
- 7 UI/UX
顧客体験

決済ビジネス
のケース



複雑・高度な課題を解決するサービス

- 1 銀行法・資金決済法・割賦販売法などの法令に基づく許認可、マネーロンダリング・テロ資金供与対策の国際基準など国内外の法令・規制などについて網羅的・専門的なナレッジを提供
- 2 Visa/Mastercardなどのライセンス取得など、事業内容に応じて必要となるライセンスについて豊富な知見を提供
- 3 基幹システムや主要各サブシステムの開発支援に加えて、入会・審査・売上・債権・会計管理など多岐にわたる業務運用構築について適切に支援
- 4 国際ブランドネットワーク（Visa/Mastercardなど）や国内ネットワーク（CAFIS/CARDNETなど）の専門的な仕様などを熟知したうえで決済機関との接続をスピーディーに構築
- 5 多様化したシステム間連携により、サービスの継続性・国際セキュリティ基準等に準拠した信頼性・24時間365日の安定性などを有するシステムの構築・運営を支援。決済データの利活用も支援
- 6 クレジットカード偽造防止による不正利用やクレジットカード情報保護（カード情報非保持化・PCI DSS準拠）などに対する不正対策及びサイバーセキュリティ強化を支援
- 7 入会・審査・利用・請求・問い合わせなどの顧客体験全体を通して使いやすいサービスの実現を支援

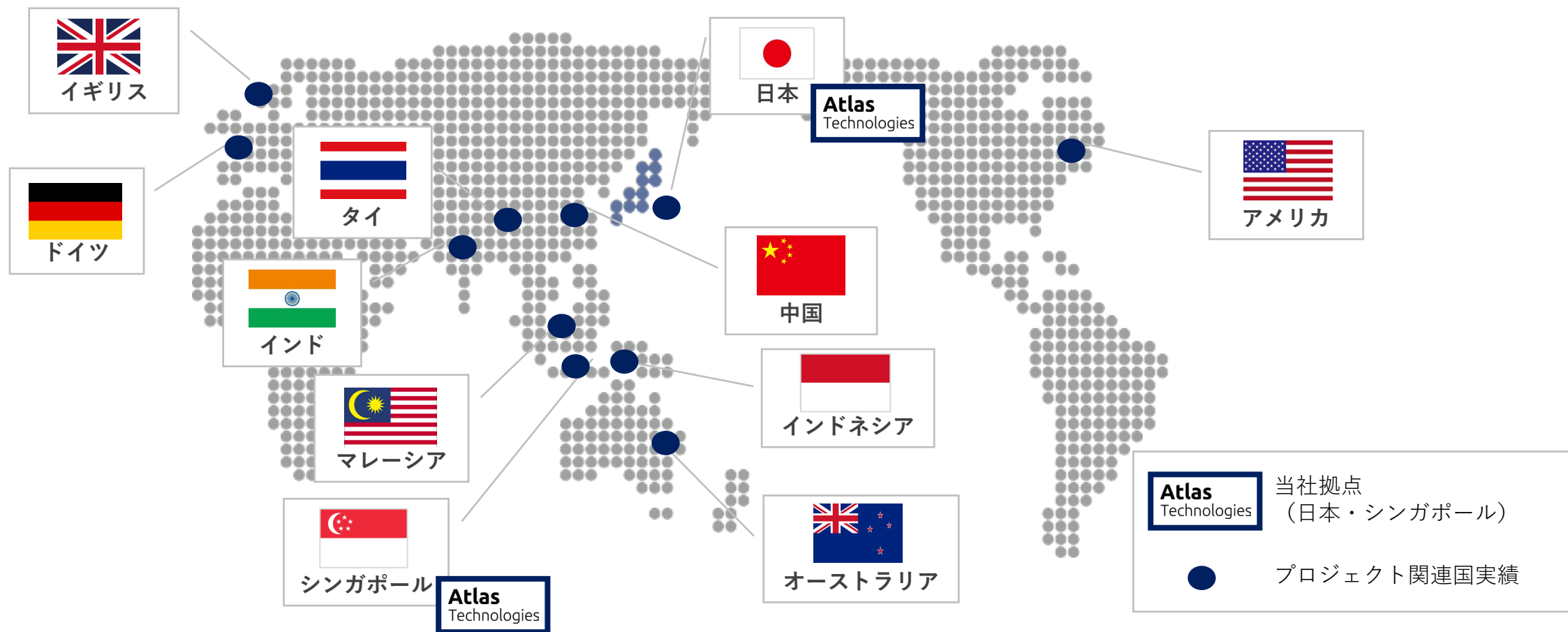
戦略立案から実行まで、一気通貫でプロジェクトをマネジメント

多くの企業では社内のリソースや知見等が不足しており、自社単独でのFintech事業の立上げ・運営は難易度の高いものとなっています。当社はクライアントと協働しながら、実態に合わせて全体最適となるよう事業構築から運営まで一連のプロセスを提供しています。



クロスボーダー案件への対応

国内クライアント企業の海外プレイヤーとのプロジェクト、海外クライアントの日本国内におけるプロジェクトの両方のご支援が可能です。
現地商習慣・競合環境・ローカル消費者理解などの市場ナレッジなどにより、スピーディーで柔軟にプロジェクトを支援します。



Fintech領域における当社独自のポジションを確立

当社の強みである (1) 独立系であることによる中立性とFintech領域で蓄積したノウハウ・ナレッジの活用、(2) 戦略立案から実行まで一貫通貫でのプロジェクトマネジメント、(3) クロスボーダー案件への対応 により、他社が追随しづらい事業優位性を構築しています。











各業界の大手企業を中心とした、高難易度の中～大規模/長期プロジェクトに注力

当社は、各業界の大手企業による、規模が大きく難易度の高いプロジェクトを中長期に渡ってご支援するケースに注力しています。その結果、新規クライアントの獲得に加えて、既存のクライアント基盤におけるプロジェクトの受注が増加・拡大しています。



日本の大手企業をはじめ、欧米のグローバル企業や東南アジアの企業などを多数支援

当社の多様性に富むチームが、グローバルレベルの専門知識とローカルレベルの深い知見を組み合わせ、各業界のリーディングカンパニーとのプロジェクト実績を積み上げています。

地域	業種	プロジェクト概要
日本 	大手カード会社 	経営方針と一体となった金融サービスを推進するためにどういった戦略をとるべきか、経営計画の振り返りとともに、社会情勢・技術動向・競合他社情報等に基づき自社の課題を分析し、市場ニーズに沿った戦略策定の方向性をクライアント企業とともに検討。大型プロジェクト実行に向けた意思決定に貢献
日本 	総合商社 	クライアント企業が参入を企図するグローバルでの決済市場の市場性（市場規模、潜在ニーズ、競合等）の評価、マーケット参入時のビジネスモデルの仮説構築、参入に向けた実行計画の策定を支援。また、新規に設立した事業会社のサービスの拡販戦略を支援
アメリカ 	国際ブランド企業 (Fortune 50) 	アメリカ・イギリス・オーストラリア・シンガポール・日本の5か国に跨るクライアント企業関係者に対して、横断的なプロジェクトマネジメント支援を実施。新プロダクトのサービスイン、システムプラットフォームの移行、会員・規制当局対応等のサポートを推進
シンガポール 	大手決済代行会社 	クライアント企業が日本市場へ参入するための戦略立案を支援。定量分析に基づく優先すべき顧客セグメントの特定や、インタビューなどに基づく国内チャネルや提携先となるパートナー企業の発掘等を実施

Fintechを活用する全業種・業態を潜在的クライアントとして、ポートフォリオを多様化

当社は、主要クライアントである大手通信キャリアに加えて、カード会社・決済代行会社・総合商社・総合サービス企業・SIer・小売企業・国際ブランド企業・国際送金企業などの多くのプロジェクト実績があり、Fintechを活用する国内外全ての業種・業態の企業が当社の潜在的なクライアントとなり得ます。事業の収益力向上や効率化、新たな事業機会を見出すことなどを旨とする新たな業種・業態のクライアントを今後獲得していくことにより、クライアントポートフォリオの多様化を図ります。

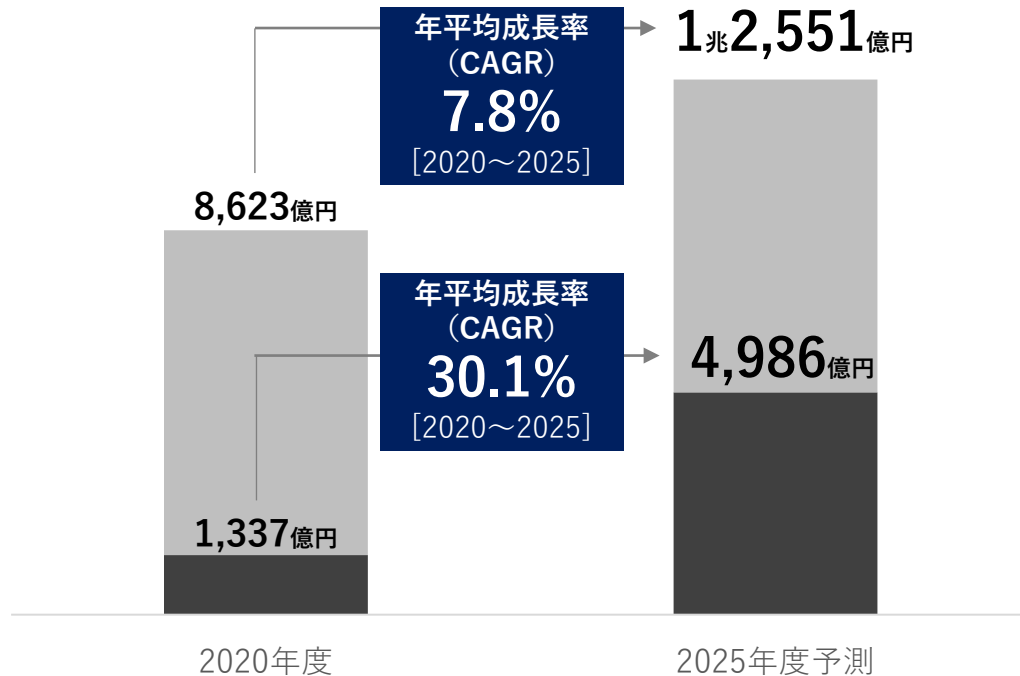


ターゲットとなる国内コンサルティング市場およびDX市場は引き続き成長

日本のコンサルティング市場全体およびデジタル関連コンサルティング市場は引き続き高成長が期待される市場であり、DXニーズもさらに加速しています。DX推進は、Fintech領域において既存金融機関が効率的なサービスを提供したり、異業種企業が新たなFintechサービスを展開するための中核をなすものであり、引き続き大きな需要が見込まれます。

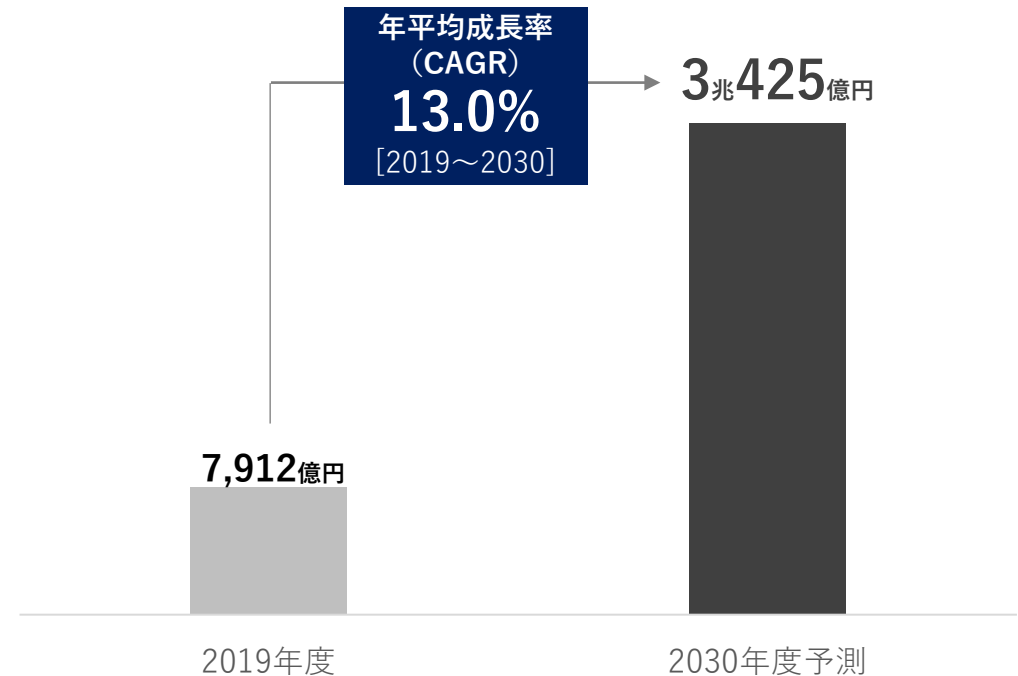
コンサルティング市場規模 (国内)

- コンサルティング市場 (全体)
- デジタル関連ビジネスコンサルティング市場



出典：IDC『国内ビジネスコンサルティング市場予測：2021-2025』

DX市場規模 (国内)



出典：富士キメラ総研『2020 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望』

回次 決算年月		第1期 2018年12月	第2期 2019年12月	第3期 2020年12月	第4期 2021年12月	第5期 2022年12月	第6期 2023年12月/Q2
売上高	(千円)	27,320	579,237	1,248,744	2,187,858	2,806,295	1,449,113
経常利益	(千円)	14,679	217,348	300,695	473,954	614,920	190,218
当期（四半期）純利益	(千円)	10,249	143,468	197,493	310,825	405,556	120,373
資本金	(千円)	3,000	10,000	12,250	12,250	674,650	675,750
発行済株式総数	(株)	300	300	305	610,000	7,100,000	7,110,000
純資産額	(千円)	13,249	156,718	358,711	669,537	2,399,893	2,522,466
総資産額	(千円)	19,130	324,630	649,138	1,143,789	2,853,949	2,933,715
1株当たり純資産額	(円)	44,165.50	522,393.48	58.81	109.76	338.01	354.77
1株当たり当期純利益金額	(円)	115,164.62	478,227.97	32.87	50.95	64.51	16.95
自己資本比率	(%)	69.3	48.3	55.3	58.5	84.1	86.0
自己資本利益率	(%)	149.1	168.8	76.6	60.5	26.4	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	190,468	316,529	432,969	123,892
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	△45,995	△12,685	△5,194	△6,724
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	4,500	—	1,324,800	2,200
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	—	—	300,886	604,730	2,357,304	2,480,489
従業員数〔外・平均臨時雇用者数〕	(名)	0	5	16	24	29	42

1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 主要な経営指標等のうち、第1期及び第2期については会社計算規則(平成18年財務省令第13号)の規定に基づき算出した各数値を記載しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定による監査証明を受けておりません。
3. 第3期から第5期までの財務諸表については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づき作成しており、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。
4. 2021年4月20日付で株式株式1株につき2,000株の割合で株式分割を、2022年4月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第3期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

本資料の取り扱いについて

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報をもとに、当社の判断および仮定に基づいて記載したものです。

将来予想に関する記述には、当社の事業計画、競合状況および成長余力等が含まれます。これらの将来予想に関する記述は、さまざまなリスクや不確定要素に左右され、実際の結果は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

Atlas Technologies

あらゆる産業とFintechの融合

To offer seamless solutions for embedding Fintech across all industries